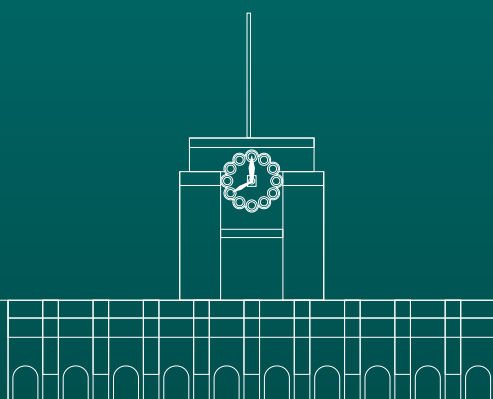




京都大学  
大学院経済学研究科  
経済学部

2024

Graduate School of Economics and  
Faculty of Economics,  
Kyoto University





# 経済学と歩んで100年

歴史と思想に学びつつ、最新理論と手法を用いて  
経済にまつわる複雑で多様な課題の解決策を探る



京都大学経済学部は、1919年に法学部(法科大学)から分かれて誕生し、経済学の研究と教育に関しては、日本において古い伝統を持つ学部です。その1世紀を超える歴史の間に、京都大学経済学部は、経済学を中心として著名な研究者を輩出するとともに、日本経済をリードする個性的な実業界のリーダーや、社会の各方面で活躍する人材を送り出してきました。これからは市場と経済の急速で構造的な変化やグローバル化を見据えて、絶えず先進的な経済学と経営学の研究を進め、高度な学部・大学院教育を発展させていきます。

## Contents

- 02 ご挨拶
- 03 卒業生の声
- 04 経済学部
- 10 大学院経済学研究科
- 23 同窓会
- 24 教員紹介
- 29 Academic Calendar 2024



## 若井 克俊

経済学研究科長・経済学部長

京都は歴史的に日本文化の中心地であり、今なお多くの伝統産業が盛んである一方で、世界屈指の先端技術をもつ多くの革新的な企業を輩出し、今日では世界のイノベーション・センターとしての地位も確立しています。また、京都は世界有数の大学の集積地域であり、約40校の大学で15万人の学生、それに1万2千人を超える外国人留学生が学んでいます。京都大学経済学部は、1919年に設立され、日本の大学でも最も長い歴史を持つ経済学部の一つです。この100年を超える歴史を通じ、本学部は研究と教育両面において経済学の発展に大きく貢献してきました。個性豊かな歴任教員たちは、独創的な研究を行い、それを教育に還元してきました。本学部で学んだ後、日本各地そして世界各国の大学で研究する数多くの経済学者が学界をリードしています。われわれの特色は、京都という地域に相応しい「伝統と革新」、そして京都大学の先人たちによって共有されてきた「リベラルな知的雰囲気」にあります。近年では優秀な若手教員を積極的に採用し、世界的に見て高い水準の研究成果を生み出しております。

経済学部には、1,000名を越える学生が在籍しており、入門科目から専門科目へと積み上げて履修していく深い専門性と、各科目を4つの群に分類し隣接科目も柔軟に履修できる広い学際性を兼ね備えた体系的なカリキュラムを提供しています。また、少人数教育を重視しており、3・4回生に対してゼミナールを開講しています。近年では、国際交流協定を締結している海外の大学への留学も盛んです。さらには、一定の要件を満たせば、学部4回生から大学院科目を受講し、修士課程を1年で修了できる「学士・修士5年プログラム」(修士課程短期修了制度)も整備しています。このように充実した教育システムのもとで、学部生は自分の目標を定め個性を伸ばすことができます。そして本学部の卒業生は、大学院へ進学して研究者を目指す人から、内外の民間企業や官公庁に就職し、国内のみならず海外においても第一線で活躍する優秀な人材を多く輩出しています。

1953年に設置された大学院経済学研究科には、現在では200名以上の大学院生(うち100名以上が海外からの留学生)が在籍しています。2019年に修士課程の組織改編を行い、①博士後

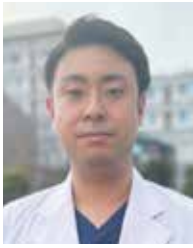


期課程進学そして研究者になることを目指す「研究者養成プログラム」と、②社会の要請に応えるべく専門的かつ実践的な経済学的分析能力の習得を目指す「高度専門人材養成プログラム」を開設しました。それぞれのプログラムの目的に沿った多様な科目を配置し、充実したカリキュラムを用意しています。そして博士後期課程では指導教員による指導、各種セミナーへの参加・発表を経て高いレベルの博士學位論文の執筆に注力します。また国際化を一層推進するため、2009年に「東アジア持続的経済発展研究コース」、2021年に「国際連携グローバル経済・地域創造専攻」を設置し、世界各国から優秀な学生を募り、原則として英語で講義を行っています。

本研究科・学部には、57万冊もの蔵書を誇る経済学研究科・経済学部図書室や、Wi-Fiを通じてデータベースや電子ジャーナルにアクセスできるなどの知的インフラが整備されており、経済学の研究・勉学を行うために最高の環境が提供されています。また、経済学部には、文系入試、理系入試、特色入試、外国学校出身者、3年次編入などの各種の方式を通じて選抜した学生が入学します。ここには高度な文科的素養を持つ者、理科的才能に秀でた者、様々な国の出身や学歴を経た者が含まれ、その多様性は京都大学の中でも屈指と言えます。様々なバックグラウンドを持つ学生たちがゼミナール等で出会い、教員や先輩を交えて議論し切磋琢磨することで、創造性が刺激され、人間的成長を遂げ、知識創造社会の発展に貢献する人材として育っています。私たちは、そのような空間を大切に、これからも一層充実させるため不断に努力する所存です。

## 卒業生の声

- 1 京都大学経済学部で学んで良かったこと・身に付いたスキル
- 2 面白かった授業
- 3 学生時代に特に力を入れていたこと
- 4 現在のお仕事について(仕事内容・やりがい)
- 5 これから学ぶ後輩たちへのメッセージ



### 谷口 智也

東京ベイ・浦安市川医療センター  
2013年3月 経済学部 卒業

- 1 京都大学経済学部には、現代の社会システムや資本主義といった経済システムに興味関心が強い学生が多いと思います。そのような環境で日々議論できたことは、社会を批判的に見つめる良い訓練になったと思っています。
- 2 間違いなくゼミです。私は竹澤祐丈先生の社会思想ゼミに所属していました。テキストを毎週輪読していくスタイルで、新書からスミスやヒュームの著作まで幅広く勉強しました。学生同士で議論し、先生は都度、ヒントを投げかけてくれたり、方向修正してくれたり、レクチャーをしてくださいます。自分の知らない視点、思考、知識に毎回さらされ、大変刺激的でした。どんな世界に進もうと、俯瞰的視点、批判的思考力は不可欠な能力だと思いますが、それをみっちり鍛

えることができたのが、このゼミでした。

- 3 ゼミとサークル活動でした。ゼミでの議論、そして年1回のゼミ論(4回生時は卒業論文)執筆は間違いなく今の私の土台となっています。また、ゼミやサークルで得た友人は今でも付き合いが続いています。久しぶりに合えば近況報告に始まり、気づけば当時と同様、政治や哲学の議論に花が咲きます。
- 4 最初は厚生労働省に就職しましたが、より人の側で働きたいと思い、医学部に学士編入し、現在は初期研修医として働いています。多くの患者さんと関わることができ、充実した日々を送っています。一般的なキャリアではありませんが、恵まれない方に寄り添う社会のあり方や、それにどう自分自身が関わっていけるのか、という問題意識に沿ってここまでできました。自らのテーマについて思考を深められたのも竹澤先生のゼミのおかげでした。
- 5 大学は答えがない問についての思考の訓練、そして自身の価値観を醸成する場だと考えています。最高の師や最高の友人たちと出会い、たくさん読書し、議論して、思考力を鍛え、自身の価値観を掘り下げてください。ここで得られた縁と経験は一生の財産になりますよ。



### 山村 萌

株式会社シナモン 執行役員  
Business Development グループ  
2016年3月 経済学部 卒業

- 1 たくさんの素晴らしい先生方や友人、先輩方の胸を借りて、学び方を学べたことが非常に良かったです。大学入学前の勉強は「受験」という大義があって、そこに向けて授業でインプットして、定期的な試験で「正解」を目指しますが、京大経済での学びは全く違いました。自ら問いを立てるところから始まり、別に授業を座って受けることだけが学びではない。正解もないことがほとんど。今はこの学びこそが本質なんだと思っています。
- 2 どんな分野でも、学ぶフィールドが豊富で、積極的に利用していました。KUINEPで留学生に交じって英語で講義を受けたり、法学部の科目を履修したり、企業が提供する特別講義があったりと、知的好奇心の赴くままいろいろ授業を受けました。異分野の授業を受けると、いろいろな面白いことをやっている人と新しく出会えるのが楽しかったです。
- 3 ゼミと部活です。ゼミは、黒澤ゼミと竹澤ゼミに所属していましたが、

毎回のゼミ・通期での論文執筆を通して、課題設定とそのアプローチについて、先生方に並走いただき、学びを体得する感覚でした。また、体育会サッカー部は、顧問やコーチがいない学生主体でした。部活は競技をするための集まりと思っていたのですが、会社のように渉外や営業まで自分たちでやっていたんです。学生という特権をフル活用して、様々な経験をさせてもらいました。

- 4 現在、AIのスタートアップで働いています。メインの業務であるクライアント向けの提案活動だけでなく、事業戦略策定・採用など含め守備範囲はかなり広いですが、視点を変えると自分で社内外の課題を見つけてきて、アプローチするというすごくシンプルな仕事です。AIという最先端技術を扱うので、エンジニアではないながらも、最新の情報を学び、ビジネスでどう活用するかを考え続けなければならないのが大変さであり、やりがいです。
- 5 まずは大学に入学することを学習の目標にされる方も多いかと思いますが、むしろ卒業後社会に出てからのほうが学び続けることの重要性が増すのではないかと思います。学ぶことにフォーカスできる学生時代に、本当の意味での「学び」の基礎体力をつけることがかなり重要だと思います。私自身も、これからも、皆さんと一緒に学び続けていければと思っています。



### 藪田 竜之介

佐賀大学 所属  
2012年3月 経済学研究科 経済システム分析専攻  
博士後期課程研究指導認定退学  
2013年3月 京都大学 博士(経済学)

- 1 一口に経済学と言っても様々な学派や理論があるのですが、京都大学経済学部ではそれらをバランスよく学ぶことができたため、一つの見方にとらわれず多面的に問題を分析する姿勢が自然と身につきました。私はその後、大学院に進学して研究者となったため、このスキルが現在の仕事にそのまま役立っていますが、仮に研究の道に進まなかったとしても、大学時代に身につけた考え方は人生の大きな財産になったことと思います。
- 2 講義もさることながら、2回生時から所属したゼミでの勉強が思い出深いです。私が入ったゼミは小規模で、同回生は私一人だけだったのですが、その代わりに大学院生の先輩方が数多く参加してくれて、ア

カデミズムの世界を身近に感じることでできる場でした。先生の研究室でお茶を飲みながら、まったりとした雰囲気の中で行われるゼミでしたが、そこで交わされる議論は真摯で知的なものであり、「これが大学か」と大いに刺激を受けました。

- 3 推理小説研究会というサークルに所属し、会誌の編集長などを務めていました。暇さえあればBOX(部室)に入り浸って、友人たちとくだらない雑談や真剣な議論に明け暮れていましたが、そんな贅沢な時間の使い方ができたのも大学時代ならではの経験だと思います。
- 4 現在は佐賀大学経済学部の教員として、研究と教育に従事しています。研究者の世界は非常に厳しいものですが、自分の仕事が学問の発展に貢献することになるというやりがいは、何物にも代え難いものです。また自分が京都大学の先生方から教わったように、自身の学生たちにも経済学の面白さを伝えたいと思いながら、教育を行っています。
- 5 京都大学、特に経済学部はとにかく自由で、それゆえに楽しく、また厳しい場所です。ここでしか味わえない経験を存分に、人生の宝を見つけて下さい。

# Faculty of Economics, Kyoto University

## アドミッション・ポリシー

Admission Policy

経済学・経営学は個人から政府に至るまでの幅広い対象の経済活動ならびに企業の営利活動を研究対象とし、個人や社会の厚生の上を目指す学問です。その研究対象は決して単純ではなく、財政、産業、雇用、金融、地球環境などに解決すべき諸問題が次々と発生し、複雑性を増しています。京都大学経済学部は、自由の学風を維持しつつ、経済学・経営学の基礎的な科目の教育を充実すると共に、絶えず新しい分野の学問を教育することを心がけ、社会経済の変化に柔軟に対応し、解決策を発見、創造できる人材を育成することで学界、官界、産業界に貢献してきました。

このような歴史を踏まえ、京都大学経済学部は、経済学・経営学的分析能力を修得できる知力と探究心を持ち、かつ、教員や他の学生と積極的に討論を重ねることにより、自主的に考え創造的な提案が行える人材に成長できる学生を求めており、以下のような学生の入学を期待しています。

### 【経済学部が求める学生像】

- 高等学校教育を通じて広範で高度な基礎知識を身につけるとともに、論理的思考力ならびに語学能力を修得している人
- 社会・経済活動全般に積極的に関与したいと考える、知的好奇心が旺盛な人

京都大学経済学部が求めるような学生の成長を促すうえで、多様な背景をもつ学生を受け入れることが重要であり、

現在、「文系入試」、「理系入試」および「特色入試」という3種類の学力検査を実施しています。

定員の多くを占める文系入試においては、経済学・経営学を学ぶための基礎となる地理歴史と数学、論理的思考力を担保する国語、専門教育や卒業後の国際的活動に不可欠な英語の4科目に関して個別学力試験を実施しています。理系入試においては、文系入試における地理歴史の試験に代えて理系用の数学試験を課すことで、経済分析で重要となる数理的能力を重視した選抜を行っています。大学院への進学を希望し、学問に固有な分析手法を修得できる知力と探求心を持ち、かつ、自主的に考え創造的な提案が行える人材に成長できる人を対象に実施する特色入試においては、高等学校の調査書、推薦書、学びの設計書、顕著な活動・学習実績の概要、大学入学共通テストおよび英語能力試験を総合して選抜を行っています。また、これらの3種類の入試においては、総合的学力の評価を行うために大学入学共通テストの点数を取り入れた合否判定を行っています。その他にも、外国学校出身者、3年次編入者向けに、多様な学力検査の機会を提供しています。



# 経済学部カリキュラム

Curriculum

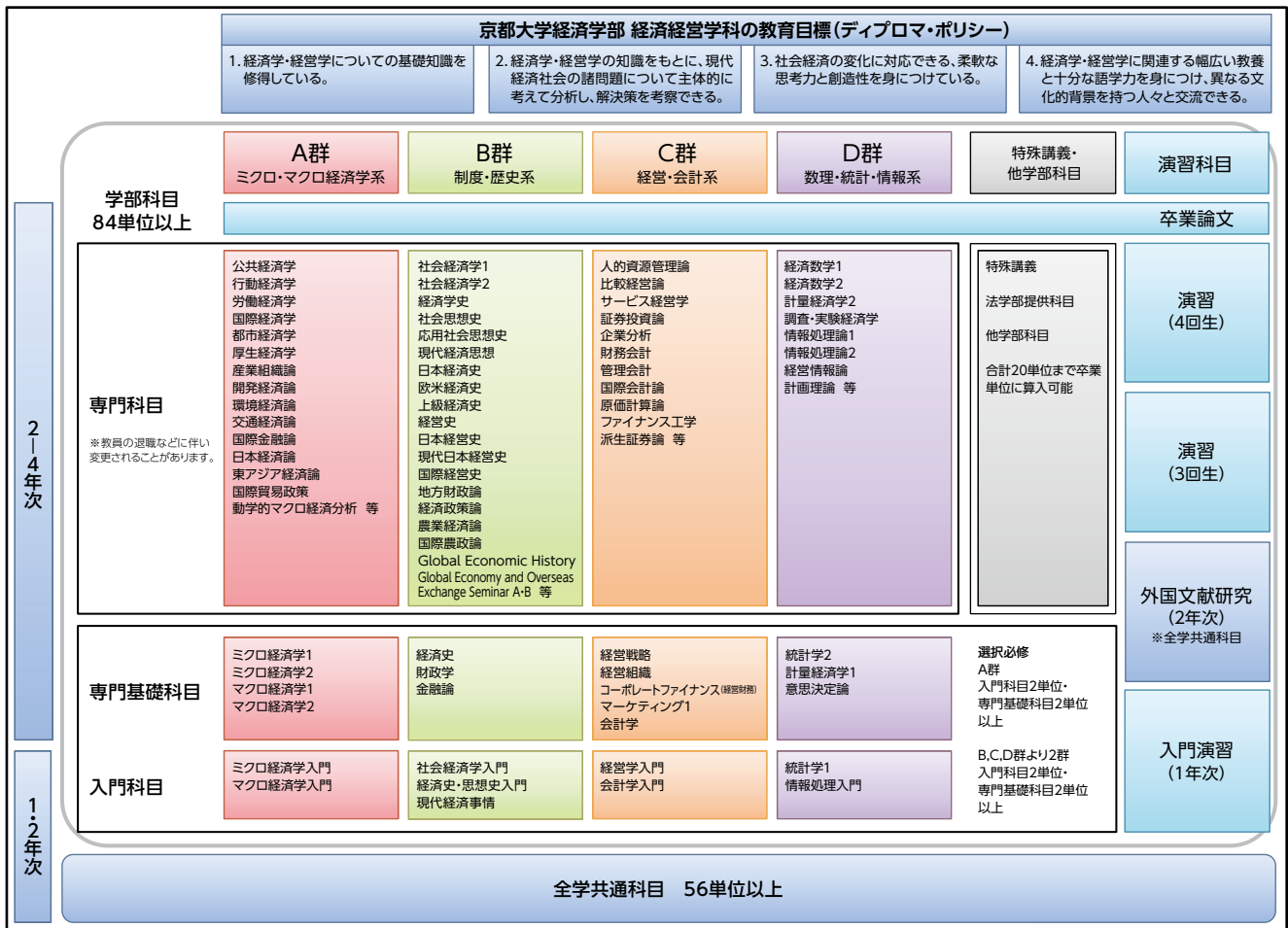
経済経営学科の1学科制を採用しています。国内外の経済の複雑化、企業経営の変容に対応できるよう、経済学・経営学および隣接領域を総合的に学習し、幅広い知識と深い思考力を身につけます。

## 体系的な専門教育

経済学部生が履修する科目は全学共通科目と学部科目に分かれ、学部科目は入門科目、専門基礎科目、専門科目、演習科目、その他(特殊講義、他学部科目)に区分されます。入門科目、専門基礎科目、専門科目はA群(ミクロ・マクロ経済学系科目)、B群(制度・歴史系科目)、C群(経営・会計系科目)、D群(数理・統計・情報系科目)のいずれかに分類され、積み上げ方式となっています。キャリア設計に対応してこれらを組み合わせる履修モデルを参考に、系統的に専門性を高めることができます。



## 経済学部 経済経営学科 コースツリー (科目構成)



## 自主性を尊重

学部科目では、経済学部生として必須の能力を身につけてもらうために入門科目、専門基礎科目の選択必修の制度を設けていますが、必修科目はなく、自主的で創造的な学修を奨励しています。卒業論文も選択制です。優秀な卒業論文を顕彰する制度を設け、より多くの学生が自主的に卒業論文に取り組むことを推奨しています。2022年度入学者から、全学共通科目では必修の外国語科目の一部に代えてデータ科学分野の科目を選択できる制度を導入し、さらに柔軟なカリキュラムとしています。

## 少人数教育

創立以来、演習(ゼミナール)制度を重視し、少人数の学生と担当教員による対話型学習システムを築いてきました。1年次対象の入門演習、3・4年次対象の演習を開設しており、担当教員の指導のもと、少人数の学生同士で様々な具体的テーマについて報告・討論しながら、問題の本質を捉え明らかにする思考力と創造性を養います。2年次には経済学部教員が担当する全学共通科目の外国文献研究があります。

## 学位の授与

4年以上在学(3年次編入者は2年以上)して、規定の単位数を取得した学生は、学士試験に合格した者と認められ、学士の学位が授与されます。卒業に必要な単位数は140単位以上で、そのうち全学共通科目を56単位以上、学部科目を84単位以上取得しなければなりません。卒業論文(選択制)の合格者には6単位が認められます。

## 学士・修士5年プログラム

経済学部(学士・修士5年プログラム)短期修了制度(短修制度)は、選抜された学生が経済学部4年次に大学院の科目の一部を受講し、修士論文作成のための研究指導を受けられる制度です。大学院経済学研究科修士課程の特別選抜および在学期間短縮制度と組み合わせることにより、通算5年間で修士(経済学)学位を取得することができます。優秀な学生に、早期に研究者としてのキャリアをスタートさせること、または企業や官庁のなかで高度な専門知識を必要とする職に就くことを支援します。短修制度・特別選抜を経て修士課程の研究者養成プログラムに進学した学生には学修奨励金を支給します。

## 学生相談室及び留学生支援室

学生相談室では、学生生活を送る上で、困ったこと、悩み等の相談を随時受けています。さらに、経済学研究科・経済学部在学する留学生を支援するために、留学生支援室が設置されています。留学生支援室で行っている支援は、授業関連の支援(授業内容案内、文献検索方法や勉強方法の相談など)、事務手続きの支援(受講登録、諸手続き補助、奨学金案内など)、その他、学内施設案内、入管文書説明、就職活動相談などです。閉室となる春・夏・冬休み期間中でも、留学生支援室はメールでの質問・相談を受け付けています。



## 学生の声



経済学部 経済経営学科 4年生  
野嶋 凜果

経済学部は主体的に行動することが好きな人には非常に魅力的な環境だと感じます。自由な学風のもと、一歩踏み出せば魅力的な友人・教授と出会えるのももちろん、理論から実用まで幅広い内容の学問を学べる機会も提供され、漠然とした「大学では何かやってみたい」という気持ちを後押ししてくれる環境が整っています。



経済学部 経済経営学科 4年生  
村上 雄哉

京都で高校時代を過ごした私は京大にノーベル賞受賞者を多く輩出した真面目な学校というイメージを持っていました。入学してみると経済学部は京大の「自由」という校風が色濃く反映されたところであり、学生は真面目な方から個性的な方まで様々な出会いがあり、また様々な学問分野から選び、学べます。そこで形成した人脈や身についたことを活かせば、あなたの将来の可能性は無限大です。





### 学部卒業生の主な就職先

経済産業省	日本生命保険	キーエンス	ゴールドマン・サックス
厚生労働省	東海旅客鉄道	双日	アビームコンサルティング
国土交通省	西日本旅客鉄道	凸版印刷	PwCコンサルティング
金融庁	丸紅	NTT西日本	ポストン・コンサルティング・グループ
野村証券	伊藤忠商事	エヌ・ティ・ティ・データ	ベイカレント・コンサルティング
大和証券	住友商事	ソフトバンク	マッキンゼー・アンド・カンパニー・ジャパン
SMBC日興証券	三菱商事	リクルート	プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン
JPモルガン証券	住友化学	楽天グループ	ワンスター
みずほ証券	村田製作所	アマゾンジャパン	シティ・コム
東京海上日動火災保険	日立製作所	カルビー	ベルシステム24
三井住友海上火災保険	京セラ	セブン-イレブン・ジャパン	ラック
日本銀行	三井物産	キリンホールディングス	マネーフォワード
日本政策投資銀行	三井不動産	ロート製薬	スクウェア・エニックス
三井住友銀行	三菱地所	EY新日本有限責任監査法人	日本M&Aセンター
三井住友信託銀行	関西電力	有限責任あずさ監査法人	ドワンゴ
三菱UFJ銀行	大阪ガス	有限責任監査法人トーマツ	LeoSophia
みずほフィナンシャルグループ	富士通	アクセンチュア	各府県庁・市役所

### 優秀卒業論文賞

2022年度卒業論文の中から、特に優れた卒業論文3編が顕彰されました。

笹山 奨太 「Effort allocations in elimination tournaments with different fatigue parameters for each stage」  
段階ごとに疲労度が異なる勝ち抜きトーナメントにおける努力配分」

小林 広樹 「プレグジットに関する政治的不確実性と日本の自動車産業」

小西 輝紀 「最適特許政策」



優秀卒業論文賞受賞者

# 寄附講義

現代経済はますます複雑化し、ダイナミックに変動しつつ発展しています。その複雑な動態を理解するためにも、原理についての知識だけでなく、各種産業や商業の経済活動の実態の理解やプラクティカルな知識がますます重要になってきています。

そこで経済学部では、寄附講義として学外の専門実務家の方を招

いて実践的な講義を開講しています。寄附講義の講師はおもに実務の第一線で活躍する方々が担っており、ときには会長や取締役にも出講いただいています。授業を通じての実務家との接触は人材育成という点からも大きな意義があり、多くの学生が強い関心をもって聴講しています。

## 主な寄附講義

### SMBCグループ 投資銀行業務とグローバル戦略

SMBCグループ寄附講義「投資銀行業務とグローバル戦略」は、学生に対し、投資銀行業務や銀行のグローバルビジネスのダイナミズムに触れてもらうことを目的として、2011年より、大学院共通科目として開講しています。この講義の受講生には、時代の変化とともに多様化・高度化する企業の経営課題に対応し、日本の銀行がスベチャリスト集団を結集して進める資金調達・運用や、M&A・リスクヘッジ・環境ビジネス等に係わる先端的ソリューションの開発・組成ビジネス、最新のITイノベーション戦略への取り組み、グローバルな金融サービス戦略の概要等について、具体的なプロダクツや事例を題材に学習していただけます。講義では、多彩な講師陣が自らの経験や現場の最前線の話に触れ、臨場感あふれる講義を行います。講義への参加にあたって、専門的な知識は必要ありません。金融や銀行業務に興味のある学生、将来的に金融業界での就職を希望する学生の、積極的な参加をお待ちしています。

### SMBCグループ 実践企業分析

SMBCグループ寄附講義「実践企業分析」は「投資銀行業務とグローバル戦略」を踏まえ、金融および銀行業務に関する、より専門的な知識を修得することを目的として2017年度より開講しています。本講義に於いては、企業の財務分析やプロジェクトの評価方法等について、実際の企業データを用いて実践的に学習します。講師による講義のみならず、グループワークによる各種分析手法の実践に重きを置いた講義となります。最終的には、本講義で習得する分析手法を用いて、学生の皆さんが主体的に戦略的な提案を考案し、その結果を説得力のある形でプレゼンテーション出来るようになることを目指します。講義の性質上、受講者数は20名弱に制限していますので悪しからずご了承ください。財務諸表や分析手法に関する知識は問いませんので、関心のある方は積極的にお申し込みください。

### MS&ADインシュアランスグループホールディングス 保険論

MS&ADインシュアランスグループホールディングスは、京都大学経済学部の学生を対象に、変貌する現代社会における保険業務を分かりやすくかみ砕いて教授することを目的として、実務の最先端で活躍する企業人をゲストスピーカーとして派遣する「保険論」の講義提供を行います。

従来型の生命保険・損害保険ニーズに加えて、医療年金分野の保険ニーズは高まる一方です。加えて、近年では、モノのインターネットなど、ICT技術の目覚ましい発展によって、個人のパーソナル・データが社会的に広く利用可能となり、木目の細かな痒いところに手の届く保険商品開発が盛んになっています。

こうした新しい保険ビジネスの発展動向に興味を持ってくれる学生の知的好奇心の喚起と未来の保険マンの掘り起こしも、この寄附講義の狙いの一つです。「保険論」では、産学連携の新しい取組として、京都大学経済学部生の沢山の聴講を歓迎します。素朴な疑問をMS&ADインシュアランスグループホールディングスのゲストスピーカーに積極的にぶつけて下さい。

### ポラリス・キャピタル・グループ プライベート・エクイティファンドと企業価値向上

2020年代に入り、日本経済・社会は、人口減少やDXなどの大きな構造的な変化にさらされています。今後の日本の産業競争力強化や企業のサステナビリティの観点から、プライベート・エクイティ投資の重要性が高まっています。本講義では、新しい金融機能としてのリスクマネー供給の重要性について学んでいきます。そのためには経済学的観点に加え、投資先の企業価値向上を行うことで、日本経済の競争力強化やビジネスモデルの転換を後押しする観点が重要です。プライベート・エクイティファンドに係る様々なプロフェッショナル(ファンド経営者・投資先企業・投資銀行・弁護士など)をゲスト講師として招へいし、担当教員とのディスカッションによって、金融機能の体系的な理解を実務とアカデミズムの観点から深めていきます。ぜひご参加ください。

### 三井住友信託銀行 金融理論と実際の金融市場

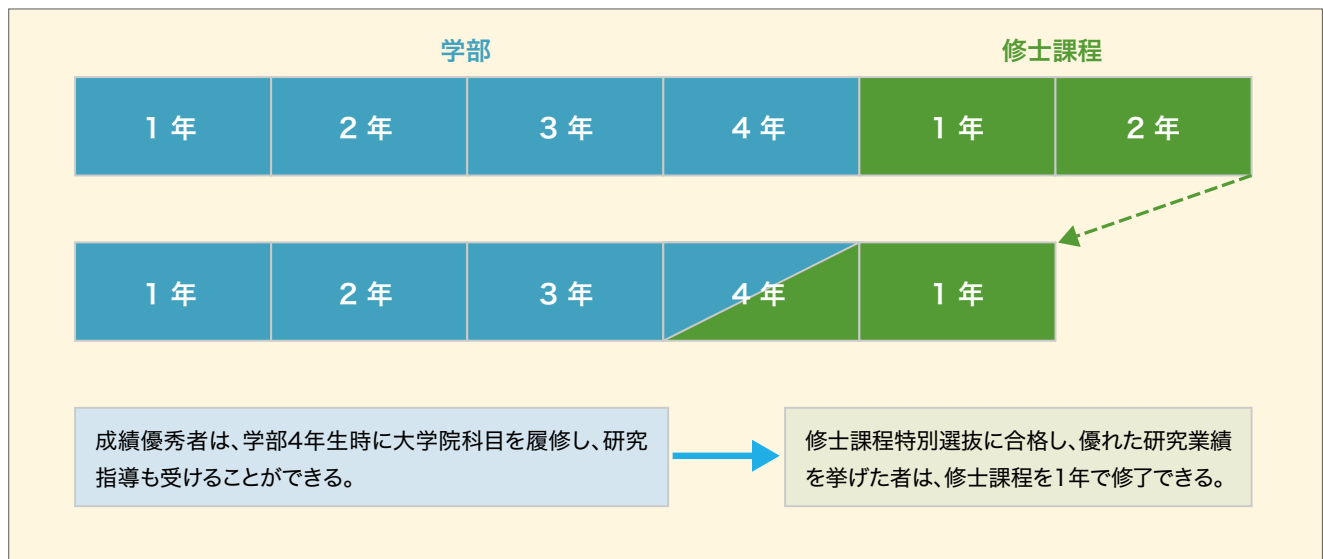
本講義は、三井住友信託銀行の実務担当者が金融実務の基本的事項を説明し、金融理論が実際トレーディング戦略や金融機関のリスク管理、顧客ニーズに対するソリューション等にどのように応用されているかを全15回にわたり紹介します。金融理論が実際の現場でどのように活かされているかを学習し、理論と実務の関連性や相違点を理解するのが目的です。

具体的には金融理論のトレーディング戦略への応用、金利・為替デリバティブのトレーディング実務、デリバティブのプライシング理論の概要とその限界、クオンツとAI投資(ロボット運用)、銀行ALMや有価証券投資の実務、事業法人における市場リスクおよびデリバティブを活用したリスクコントロール手法、マーケットと信託といった金融実務について解説する予定です。金融理論のみならず金融実務に関心のある方もぜひともご参加ください。

# 短期修了制度

## ハイスピードでの修士学位取得

2017年度より「学士・修士5年プログラム」(短修制度)を開始しました。京都大学経済学部生のうち、学部での選考により選抜された「短修制度生」は、学部4年次において大学院の科目の一部を受講しながら修士論文作成に向けた研究指導を受けることができます。また経済学研究科では、優秀な成績を修めた場合に、通常2年以上の在籍期間を1年に短縮して修士課程を修了できる「在学期間短縮制度」を開始しました。「短修制度生」は修士課程特別選抜を経て経済学研究科に入学した場合、この制度を利用して、通常は6年間を要する学部・修士課程を通算5年間で修了することが可能です。



## アドミッション・ポリシー

### Admission Policy

#### 経済学研究科修士課程・博士後期課程 経済学専攻

日本で最も古い伝統を誇る経済学研究科の一つである京都大学大学院経済学研究科は、創設以来、経済学分野における研究教育の一大拠点として活動を続けてきました。修士課程・博士後期課程の教育・研究を通して、経済・経営における諸活動を、科学的に分析し、財政、産業、雇用、経営、金融、地球環境など、現在の日本が抱える諸問題に対して、本質的な解決策を提示しうる研究者、および専門能力を備えた実務家の養成を行っていました。経済学の最先端を切り開き続けるためには、即効性のある個々の断片的な知識を詰め込むよりも、過去に例のない様々な種類の問題に対して創造的に対応できる能力が必要になります。このような能力を持つ学生を輩出するため、私たちは以下のような学生の入学を期待しています。

1. 修士課程においては、志望分野を学ぶために必要な基礎学力を有している人、博士後期課程においては、志望分野に関する深い専門的知識を有している人
2. 経済学の研究を通じて学術の高度化に寄与する意欲をもっている人、およびその普及・社会的還元に関わる意欲をもっている人
3. 志望分野において、先駆的な研究課題を自ら設定することができ、それぞれの分野の方法論を学んで、課題を解決する能力をもっている人
4. 日本語あるいは英語によって、研究成果を国内外に効果的に発信するための、もしくは実践を通じてその社会的還元に関わるための語学能力を具えている人

本研究科は、入学者選抜にあたり、公平な選抜を実施しています。人種、宗教、性別、ジェンダー、年齢、国籍、政治的信条、障害等を理由に差別することはありません。

上記のポリシーを実現するため、本研究科修士課程では、学士課程の成績等の書類審査、TOEFLの成績による評価及び経済学等関連の専門知識や研究計画を評価する試験を適宜組み合わせた多様な入学試験を実施します。

また、本研究科博士後期課程においても、修士課程の成績等の書類審査、論文審査及びTOEFLの成績による評価及び口頭試験を適宜組み合わせた入学試験を実施します。

東アジア持続的経済発展研究コース(EAコース)においては、学士課程または修士課程の成績等の書類審査とそれに基づく受入予定教員とのマッチングを行い、第1次合格者に対して面接試験を実施しています。

#### 経済学研究科修士課程 京都大学国際連携グローバル経済・地域創造専攻

本専攻では、社会や組織が直面する様々な課題に対し、歴史的素養と経済学的な知識に裏打ちされた批判的で分析的な思考を生かして取り組むことができる人材、またグローバル化する今日の世界においてリーダーシップを発揮できる国際的な人材を育成します。そうした人材を輩出するために、選考にあたっては、以下の能力・意欲・経験を持つ人物を評価する形で選抜を行います。

1. 批判的・分析的な思考力を持ち、自ら問題を設定できる。
2. 歴史に関する知識・関心を持つ。また経済学あるいはその他の社会科学の諸領域について基礎的な学力を持ち、社会科学的概念を扱うことができる。
3. グローバル化やその下での地域の変容への関心を持ち、社会や組織が具体的に直面する課題に対して、リーダーシップを持って取り組みたいという意欲を持つ。
4. 英語による社会科学系論文の文章論理を理解し、また自らの主張を英語による文章で表現できる。同様に口頭でのコミュニケーションでも意思の疎通が可能である。
5. 社会的責任と研究倫理を自覚し、それらを踏まえて学修する資質を持つ。

上記のポリシーを実施するため、本専攻の選考は、カリキュラム・ポリシーで示した「GLOCALプログラム」の選考の一部として行われます。ただし、出願者はあらかじめ希望する学修経路(スタディトラック)を定めた上で出願し、出願後はこれを変更することはできません。GLOCALプログラムへの出願者のうち、京都大学での学修を含む学修経路を選択して出願し、選考を経て入学を認められた者が、本専攻の所属学生となります。

GLOCALプログラムにおける選考は基本的に書類選考によって行われますが、本専攻を含む学修経路に関しては、口頭試験が課されることがあります。出願者は、GLOCALプログラムが定める共通の出願資格を満たす必要があり、それには以下のような要件が含まれます。

- － 学士号を持つ者。特に、本プログラムの主題に関連する人文社会科学諸分野(例えば経済学、経営学、歴史学、経済史・経営史・社会史その他)に関する学士号を持つ者、あるいはそれと同等とみなされる者。
- － GPA基準で75%以上(国別のGPA要件については別途定めGLOCALのウェブサイトに掲載)
- － IELTS総合点6.5以上、能力別評定の全てが6.0以上

本専攻の教育課程を含め、GLOCALプログラムにおいては、入学者選抜にあたり、公平な選抜を実施しています。人種、宗教、性別、ジェンダー、年齢、国籍、政治的信条、障害等を理由に差別することはありません。

## 修士課程・博士後期課程カリキュラム

Graduate School Curriculum

### 有数の伝統

経済学研究科は、1953年に開設された伝統のある研究科です。大学院で修士の学位を授与された人は、2023年3月現在で2,000名を超えており、博士の学位を授与された人は、1,100名を超えています。その多くが研究者となって大学やシンクタンク等で研究職に就き、内外の学界で活躍しています。大学院教育の中軸としての研究者養成は、今後も重視します。

### 経済学研究科の4つのプログラム

経済学研究科には現在、「経済学専攻」と「京都大学国際連携グローバル経済・地域創造専攻」の2専攻のもと4つのプログラムが設置されています。

### 学術的専門性と実践性の追求

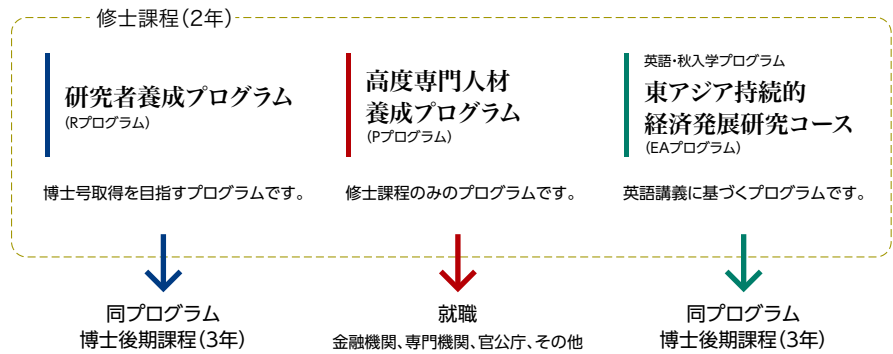
設立当初からの伝統を引き継ぐ日本語による修士課程の教育カリキュラムは、2019年度より「研究者養成プログラム」と「高度専門人材養成プログラム」の2つのプログラムに再編されました。

「研究者養成プログラム」は、博士後期課程進学を前提に、研究者を養成することを主たる目的とするプログラムです。授業履修と修士論文研究により、経済理論、社会経済学、応用経済学、経済史・経済思想史、経済政策、経営・会計学など、経済学とその関連の諸領域における学術的蓄積を継承し、研究に必須の基礎学力および分析能力を習得することを目標とします。

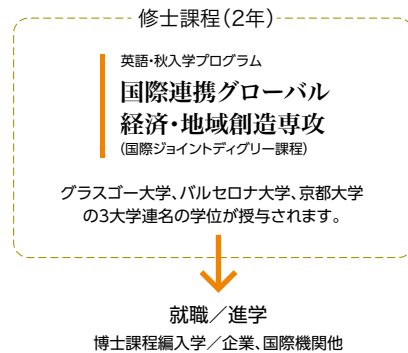
「高度専門人材養成プログラム」は、修士課程での修了を前提に、経済学に基づく高度な専門知識を備え、国内外の社会の期待に応えられる高度専門職業人を養成することを主たる目的とするプログラムです。授業履修と修士論文研究により、経済学と関連諸領域および実証・データ分析における基盤的・先端的な専門知識を習得し、またグループワークや英語を含むコミュニケーションに関する能力を高め、国内外の経済社会の課題・問題を実践的に分析、解決できる能力を習得することを目標とします。

博士後期課程の教育カリキュラムでは、大学院生ごとに複数の教員による博士論文指導委員会がつけられ、3年間で博士論文を作成できるように個別指導をおこなっています。また、研究状況に応じて発表を行うとともに高度な討論、切磋琢磨の場を設けるためにセミナーやワークショップを開設しています。

### 経済学専攻



### 京都大学国際連携グローバル経済・地域創造専攻



### 東アジア持続的経済発展研究コース (英語による教育カリキュラム)

「東アジア持続的経済発展研究コース」は、英語を共通言語とした秋入学のプログラム(修士課程2年間、博士後期課程3年間の研究者養成用コース)です。このプログラムでは、環境・社会・ガバナンスという切り口と多角的・学際的・国際的な視点から、開発政策・産業政策・経営管理をめぐる諸問題を解決し、東アジア地域を中心とする世界の社会経済的諸問題の実践的解決と持続可能な発展に資する学術研究者、国際機関や国際NGO等で活躍する実務エコノミストを養成することを目的としています。本コースに所属する学生は、アジアを中心に世界各地の出身者で構成されています。また、海外からの招へい研究者による講義も提供されるなど国際的な環境の中で学習することができます。



### 修士課程3大学国際共同学位プログラム (英語による教育カリキュラム)

京都大学国際連携グローバル経済・地域創造専攻は、英語により教育を行う秋入学の修士課程国際共同学位(ジョイント・ディグリー)課程であり、グローバル・リーダー人材を養成するプログラムです。

このプログラムは、学生はグラスゴー大学(第1学期)、バルセロナ大学(第2学期)で半年ずつ、また2年目には京都大学(第3・第4学期)にて学び、3大学が共同で授与する修士(グローバル経済・地域創造)の学位を取得します。歴史的素養と経済学的知識、批判的で分析的な思考、国際性とリーダーシップを兼ね備えた人材の育成を目標とする本専攻では、学生は、グローバル化とその下での各国・各地の動態を、歴史的な視点と経済学・経営学を軸とした学際的なカリキュラムによって学びます。本専攻が提供するこの3大学共同学位課程は、欧州を中心とする7大学連合が提供する「GLOCALプログラム」(Erasmus Mundus International Master: Global Markets, Local Creativities)の一部を構成しており、学生は、地理的な偏りなく世界中から集まる学生たちと共に学びます。

(京都大学国際連携グローバル経済・地域創造専攻の詳細はP14,15ページを参照してください。)



### 博士後期課程ダブルディグリー・プログラム

ダブルディグリーは、京都大学と外国の大学が協定を締結し、双方の修了要件を満たした学生に対して、双方の大学がそれぞれ学位を授与する制度です。学生は、一つの大学では得られない高度で付加価値の高い学修機会を獲得できます。2018年より京都大学経済学研究科とグラスゴー大学(イギリス)社会科学系カレッジとの連携による博士課程国際ダブルディグリー・プログラムがスタートしました。

このプログラムは、本研究科の博士後期課程所属の大学院生が対象で、両大学の教員による共同指導を受けつつ、京都とグラスゴーで各2年研究に従事し、両大学の学位論文審査に合格することで両大学から博士号が授与されます。

### JICA開発大学院連携プログラム

東アジア持続的経済発展研究コースは京都大学が参加するJICA開発大学院連携プログラム・経済領域の受け皿となり、ASEAN諸国をはじめとする開発途上国の未来と発展を支えるトップリーダーの育成に貢献しています。同プログラムの支援で新たに開講した科目「International Development Assistance Policy」では、日本の政府開発援助(ODA)の最先端で活躍するJICA関係者、ODA等の開発プロジェクトに参加する民間企業の担当者、そして開発プロジェクトの現場で生じる諸問題についてモニタリングやアドボカシー活動を展開するNGO・市民社会組織の担当者を講師に、開発援助の実態に迫りながら、持続可能な発展のあり方について学んでいます。

### 修士課程修了者の主な就職先

三井住友銀行	アビームコンサルティング	住友商事	アパナード
住友生命保険	京都市	谷町君	三井住友銀行(中国)
デロイトトーマツグループ	任天堂	東京海上アセットマネジメント	ブレインパッド
みずほ総合研究所	大阪星光学院中学校・高等学校	Essence Securities	Beijing Puxiang Hospital Investment Management
三菱総合研究所	XGIMI	Shanghai Investment Consulting Group	
日本アイ・ピー・エム	岡三アセットマネジメント	KE Holdings (BEKE)	
アクセンチュア	浦発銀行	IBM	

### 在学生の声



経済学研究科 経済学専攻修士課程高度専門人材養成プログラム(Pプログラム)1回生

中村 詩子


私は、学部4回生の5月までヘルシンキ大学への交換留学で北欧の福祉政策を学び、後期から「学士・修士5年プログラム(修士課程短期修了制度)」を利用して、本研究科にて学んでおります。高度専門人材養成プログラム(Pプログラム)で学ぶことの魅力は、経済学の知識に基づいた多角的な分析視点を養える点にある、と感じています。一般的な経済学理論(ミクロ・マクロ・計量経済学)を学ぶと共に、それらの知識を、データ分析の授業やグループでの研究活動を通じて、実践的な学びへと応用することが可能です。加えて、個人の関心に応じて、希望をすれば、研究者養成プログラム(Rプログラム)の開講科目を受講することも認められており、特定の領域における知見を深めることもできます。すなわち、経済学理論の知識、それを実践に活かす学び、また、自身の関心に基づく専門性の高い知見を統合させることで、自分ならではの、社会を俯瞰し、分析する能力を培うことができる、と言えるでしょう。そしてなにより、様々な方面に興味のベクトルが向いていて、それぞれの時間軸に生きる沢山の人のとの出会いが、自身の学びを豊かにしてくれることも、強く実感しています。

博士課程修了者の主な就職先

京都大学	琉球大学	佛教大学	日本総合研究所
東京大学	慶応義塾大学	京都先端科学大学	三菱総合研究所
大阪大学	青山学院大学	桃山学院大学	日本生命保険
九州大学	立教大学	蘇州大学(中国)	Asian Development Bank Institute
神戸大学	同志社大学	北京外国語大学(中国)	Beijing Puxiang Hospital Investment Management
横浜国立大学	関西学院大学	国際連合食料農業機関(FAO)	Asian Development Bank Institute
徳島大学	関西大学	KPMGコンサルティング	

在学生の声

経済学研究科 経済学専攻修士課程研究者養成プログラム(Rプログラム)2回生 **浦上大育**



学部時代は他大学の工学部に所属し、卒業研究ではマーケティングの一環である顧客のデータ分析を行いました。しかし、この分野の研究には経済学をはじめとし、経営学や統計学の知識が必要だと感じたため、本研究科のRプログラムに進学しました。本研究科のRプログラムに進学する利点として、まず授業が充実しているという点が挙げられます。基礎科目としてミクロ経済学・マクロ経済学・計量経済学・数学・統計学等の経済学の知識を網羅的に習得できるカリキュラムや、経営学に興味のある学生に対しては経営学の原理や研究方法を学べる授業もあります。専門科目では各分野に特有の理論・分析手法等を学ぶことで応用力を身につけられます。また、研究環境が充実していることも利点の一つです。本研究科所属の学生は、ComtradeやFinancialQUEST等の様々なデータへも容易にアクセスできます。卒業後は博士後期課程への進学はもちろん、就職を選択する方も多い印象です。近年のデータの蓄積やコンピュータの発達によって本研究科で習得できる知識や技術、創造的能力は様々な場面で活躍できるようになっていると感じます。みなさんもここで一緒に学び、研究してみませんか。

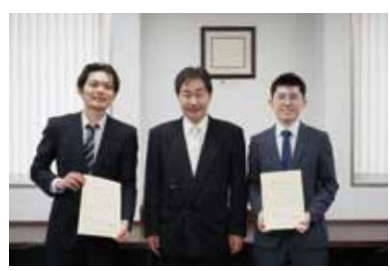
**優秀修士論文賞(研究者養成プログラム)**  
 2022年度修士論文の中から、特に優れた修士論文2編が顕彰されました。

---

**中村 裕貴** 「Hawkes過程と共和分によるコロナウイルス感染状況の分析」

---

**小池 智大** 「“Impacts of Stochastic Energy Price on Green Innovation”  
 (確率的なエネルギー価格がグリーンイノベーションに与える影響)」



優秀修士論文賞受賞者

**優秀修士論文賞(東アジア持続的経済発展研究コース)**  
 東アジア持続的経済発展コースの修士論文(2023年9月修了)の中から、特に優れた修士論文3編が顕彰されました。

---

**MA Mingze(バメイザワ)**  
 「“Dancing with Analysts”(アナリストと踊る)」

---

**WU Mengyao(ウーメンギャオ)**  
 「“Does Language Affect Identity Salience in Multinational Teams? Evidence from Trusting Behavior of Football Players in Premier League”  
 (多国籍チームにおいて、言語はアイデンティティ顕現性に影響を与えるのか?プレミアリーグにおけるサッカー選手の信頼行動からの証拠)」

---

**ZHANG Yimeng(チャン イメン)**  
 「“CEO Network and Firm's Innovation : Evidence from China”(CEOのネットワークと企業のイノベーション: 中国からの証拠)」



優秀修士論文賞受賞者

# 京都大学国際連携グローバル経済・地域創造専攻(修士課程)

International Joint Master Degree Program in Global Markets, Local Creativities

## 3大学国際共同学位課程

本専攻は、京都大学がグラスゴー大学(イギリス)およびバルセロナ大学(スペイン)と共同で提供する、英語による国際共同学位(ジョイント・ディグリー<sup>※</sup>)プログラムです。グラスゴー大学(第1学期)、バルセロナ大学(第2学期)、京都大学(第3・第4学期)で学び、修士の学位を取得します。



<sup>※</sup>ジョイント・ディグリーとは、連携する大学間で開設された共同プログラムを履修し、修了した者に複数の大学が共同で単一の学位を授与するものです。

## グローバルリーダー人材養成

歴史的素養と経済学的知識、批判的で分析的な思考、国際性とリーダーシップを兼ね備えた人材の育成を目標とする本専攻では、グローバル化とその下での各国・各地の動態を、歴史的な視点と経済学・経営学を軸とした学際的なカリキュラムによって学びます。また国際性豊かな教師陣やカリキュラムを生かし、世界から集まる同級生との相互研鑽を通じて、多国籍企業、国際機関や各国政府、NGOや研究機関などを舞台にグローバルに活躍するための能力を養います。



## GLOCALプログラムと地球規模の国際性



本専攻の課程は、欧州を中心に7カ国の7大学が連合するGLOCALコンソーシアムによる学位課程(Global Markets, Local Creativities: GLOCAL)の一部(スタディトラックD:右ページ参照)を構成しています。各国において京都大学とよく似た位置にある7大学が密接に協働し世界水準の教育を提供します。

### GLOCALプログラム所属学生の出身地域



GLOCALコンソーシアム構成大学  
 グラスゴー大学(イギリス)  
 バルセロナ大学(スペイン)  
 ゲッティンゲン大学(ドイツ)  
 エラスムス・ロッテルダム大学(オランダ)  
 京都大学(日本)  
 ウプサラ大学(スウェーデン)  
 ロス・アンデス大学(コロンビア)

本専攻の開設に先立ち2017年に発足したGLOCALプログラムでは、特定地域に偏ることなく世界各地からの学生が学んでいます(上図)。



GLOCALは欧州連合エラスムス・ムンドゥス国際修士プログラム(EMJMD)であり、本専攻は同プログラム初の日本での正規学位課程です。2021-23年度においては、エラスムス・ムンドゥス奨学生に選ばれた学生は授業料を免除され、欧州での学修期間は奨学金が支給されました。現在、同プログラム第2期申請中です。



### プログラム概要

- [専攻名] 京都大学国際連携グローバル経済・地域創造専攻  
International Joint Master Degree Program in Global Markets, Local Creativities  
<https://www.econ.kyoto-u.ac.jp/glocal/>
- [学位名] 修士(グローバル経済・地域創造)  
International Master in Global Markets, Local Creativities
- [学問分野] ビジネス・歴史を中心に、経営学(国際経営等)、経済学(経済政策論・産業論等)、社会学(都市・農村社会学等)、政治経済等に跨る多様な学際的領域
- [修業年限] 2年(グラスゴー大学6ヶ月、バルセロナ大学6ヶ月、京都大学12ヶ月)  
全ての学生がグラスゴー大学から学修を開始し、バルセロナ大学、京都大学へと移動。
- [入学時期] 9月
- [入学定員] 8名
- [使用言語] 全カリキュラムを英語で提供
- [修了要件] 2年以上課程に在学して研究指導を受け、40単位(120ECTS)以上を修得、かつ修士論文(英語)を執筆し審査および試験に合格すること。
- [窓口] 京都大学国際連携グローバル経済・地域創造専攻事務局  
jd-econ@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp





## カリキュラム: 7大学共学から京都での主体的な研究へ

本専攻の学生は9月に入学し、最初の半年間は、グラスゴー大学を拠点にGLOCALプログラムに所属する7大学の学生全員で“Global Economy”などの基礎科目を履修します。続く2学期には他の3つの「スタディトラック」の学生とともにバルセロナ大学で学び、インターンシップ等を含む実践的な授業を履修します。夏には、GLOCALの学生全員が参加し、また異なる学年の学生との交流の場ともなるサマースクール(毎年異なるテーマで開催)に参加します。2年目には京都大学に拠点を移し、「スタディトラックD」の主題である“Industrial Dynamics and Sustainability”に関する少人数制の講義・演習に参加しつつ、修士論文の準備に着手します。京都大学の教員を主指導教員、他の連携2大学の教員を副指導教員とする指導チームの下で修士論文を作成します。3大学が共同で行う学位審査を経て、3大学連名の学位が授与されます。



## 出願/学費・奨学金について

- [出願期間]** 入学前年9月上旬から入学年1月初旬  
(2024年9月入学生募集締切: 2024年1月12日)
- [出願方法]** GLOCAL公式Webサイトよりオンライン出願:  
<https://globallocal-erasmusmundus.eu/how-to-apply/>
- [出願資格]** GPA3.0以上(卒業・修了した大学の所在国等により異なる。上記サイト参照)  
IELTS 6.5/TOEFL iBT90以上など(詳細は上記webサイト参照)
- [受験料]** 無料
- [合格発表]** 4月
- [学費]** GLOCALプログラムの定めによる(京都大学の標準額とは異なる。下記サイト参照)  
本専攻 Webサイト: <https://www.econ.Kyoto-u.ac.jp/glocal/scholarship/>  
GLOCAL Webサイト: <https://globallocal-erasmusmundus.eu/scholarships-fees-and-funding/tuition-fees/>



## 学生の声

### 国際連携専攻 1期生 吉川 英輝

地理的多様性・歴史的プロセスを重視した現代経済の分析に興味があり、国際連携専攻を選びました。GLOCALは複雑なグローバル経済を空間軸・時間軸で理解することを主題としており、この分野を世界的にリードする教授陣がいます。本専攻では多様な価値観に出会えました。国連機関や多国籍企業で働いてきた学生、起業を目指す者など、それぞれの人生経験を踏まえた主張からの学びが大きかったです。中南米の経済社会類型について議論をした際には、その地域出身の学生がビジネスグループのもつ影響力を語ってくれました。経験に基づく発言を求められるだけでなく、地域やトピックについての深い理解も求められます。価値観の違いが対立を生むこともありますが、その体験自体が得難いものであり、それを乗り越えることが貴重な財産になっています。GLOCALとは多様な学生と話し合わなければならない環境であり、現代経済社会の複雑性を理解し解釈する力と、グローバルなコミュニケーションでの対話する力を鍛えられる場だと思います。



“スコットランドの美しい大地にて”

### 国際連携専攻 2期生 安里 泰貴

本専攻は「自覚」の連続です。私は、経済体制の国際的発展における地域社会が秘める可能性に興味があり志望しました。グラスゴー大学では国際化・資本主義、加えて世界不均衡などを理論視点から批判的に捉え議論する機会を得ます。「答えが無い」からこそ「多角的視野」の重要性を学べる点が、大きな魅力です。多国籍の学生同士で日々の授業・課題を共に乗り越える過程で得られる強固な友情は、机上の学問以上に貴重な資本となります。本専攻開始以降、無知であることの恥と同時に「苦勞しながらも努力する姿勢」の尊さを実感しています。同年代の学生と共に学び続け、新たな自己の一面や社会の在り方について「自覚」していきたいです。



# 国際交流

## 部局間交流協定による留学

経済学研究科・経済学部では、世界16か国・地域の28大学・研究機関と学術・学生交流協定(33協定先)を締結し、海外留学や外国人学生との交流の機会を提供しています(2023年12月現在)。協定校への交換留学生募集は、学部生・大学院生を対象として留学の開始時期毎に年に2回行われます。協定校で修得した単位は、所定の手続きにより京都大学での修得単位として換算可能です。

なお、経済学部の独自の取り組みとして、交換留学(大学間交流協定に基づくものも含む)への参加や英語科目の履修・修得、英語能力テストの一定スコア獲得といった、学生自身の努力を認定書という形で評価する「グローバルコース履修認定制度」を設けています。

## 国際連携大学院プログラム

京都大学は文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業(2014~23年度)に採択された「京都大学ジャパングートウェイ構想」において、世界トップレベル大学と連携して質の高いカリキュラムと研究指導環境を提供し、さらに国際共同学位プログラム等の開発を通じて教育力と研究力の更なる強化を図ってきました。経済学研究科はこの全学的な取り組みのもと、「持続可能性」と「文化越境性」をキーワードに多様な国際連携教育プログラムを実施するため、文学研究科、農学研究科(生物資源経済学専攻)とともに「スーパーグローバルコース人文社会科学系ユニット(Asian Platform for Global Sustainability & Transcultural Studies)」を構成し、研究・教育の国際化を進めています。

経済学研究科は既存の大学院国際プログラム「東アジア持続的経済発展研究コース」の実績を踏まえ、本事業の一環として、外国人招へい研究者による集中講義(国際共同実施科目)提供や共同論文指導に取り組んでいます。また、国際共同実施科目をはじめとする英語提供科目の履修や国際学会での発表、国際セミナー/インターンシップへの参加等を体系的に進めた学生に対して「スーパーグローバルコース履修認定」を行うことで、次世代グローバル人材の育成に努めています。

本事業のもう一つの柱は、パートナー大学と連携して設置する国際共同学位プログラムの開発です。グラスゴー大学・社会科学系カレッジとの連携により2018年に設置された博士後期課程国際ダブルディグリー・プログラムと、グラスゴー大学およびバルセロナ大学との連携により2021年秋に設置された修士課程ジョイントディグリー・プログラム(国際連携グローバル経済・地域創造専攻)は、本事業の成果です。

さらに、国際共同学位プログラムに留まらず、教育研究交流のハブ拠点となることを目指し、欧州(ワーヘニンゲン大学等)およびアジア(チュラロンコン大学、タマサート大学、カセサート大学、ガジャマダ大学等)のパートナー大学との学生相互派遣や国際合同ワークショップ(新型コロナ禍のもとでもオンライン開催してきました)にも積極的に取り組んでいます。



## 東アジア持続的経済発展研究コース (英語による教育カリキュラム)

「東アジア持続的経済発展研究コース(東アジアコース)」は、英語を共通言語とした秋入学の大学院プログラム(修士課程2年間、博士後期課程3年間の研究者養成プログラム)です。環境・社会・ガバナンスという切り口と多角的・学際的・国際的な視点から、開発政策や産業政策、経営管理をめぐる諸問題を解決し、日本および東アジア地域を中心とする世界経済の持続可能な発展に資する学術研究者および実務エコノミストを養成することを目的としています。本コースに所属する学生の出身地は世界各地に広がっています。さらにJICA開発大学院連携プログラムや大学院交換留学生の受け皿となっているほか、科目の一部を共有する国際共同学位プログラム(国際連携グローバル経済・地域創造専攻)との相乗効果も期待されます。また、海外からの招へい研究者による集中講義も提供されるなど、京都にいなから国際的な環境の中で学修と研究に励むことができます。



### 受入留学生数 (2023.5)

地域	国	学部	修士課程	博士課程	聴講生	合計
アジア	インドネシア共和国	1	1	2	1	5
	シンガポール共和国	2			1	3
	タイ王国		2	1		3
	大韓民国	6		2	1	9
	中華人民共和国	1	92	28	5	126
	香港特別行政区				1	1
	中華民国(台湾)	3	5	1	1	10
	フィリピン共和国		1	2		3
	ベトナム社会主義共和国	1	2	2		5
	スリランカ民主主義共和国			1		1
	モンゴル国	2				2
	ミャンマー連邦共和国	1	2			3
	ラオス人民民主共和国			1		1
北米	アメリカ合衆国	1		2		3
	メキシコ合衆国		1			1
中南米	ジャマイカ			1		1
	コロンビア共和国		1			1
	ウルグアイ東方共和国			1		1
	ブラジル連邦共和国		1			1
欧州 NIS諸国	ドミニカ共和国				1	1
	フランス共和国		1	1		2
	オーストリア共和国		1			1
	スペイン王国			2	1	3
	デンマーク王国		1			1
	ベルギー王国		1			1
	オランダ王国				1	1
	ドイツ連邦共和国			1		1
	英国		1			1
	ハンガリー		1			1
	ルーマニア			1		1
中東	ロシア連邦		1			1
	トルコ共和国		1			1
		18	116	49	13	196

### 交流協定校への派遣学生数 (2022.4~2023.3)

地域	国	学部	修士課程	博士課程	合計
アジア	中華民国(台湾)	1			1
	タイ王国				0
	シンガポール	1			1
	インドネシア共和国	1			1
大洋州	オーストラリア連邦	3			3
	ニュージーランド	1			1
北米	アメリカ合衆国	3			3
	カナダ				0
欧州	スペイン				0
	フィンランド共和国	1			1
	スウェーデン王国		1		1
	英国	7			7
	オランダ王国	1			1
	ドイツ連邦共和国				0
	ベルギー王国	1			1
		20	1	0	21



### 協定校一覧

学術・学生交流協定一覧は  
こちらのQRコードよりご確認ください。

## 研究／教育推進

### 公認セミナー

7種類の幅広い分野をカバーするセミナーを運営しており、国内外で活躍する研究者を招き、活発な議論を通じて、最先端の問題意識、知識の共有、研究者ネットワークの構築をはかっています。

#### 経営学セミナー

経営学領域における経営組織論、経営戦略論を中心に内外の研究者を招き、研究報告と討論の機会を設け、京都大学大学院経済学研究科における経営学研究の活性化を図ること、および大学院生に高度な研究にふれる機会を提供することが、本セミナーの目的です。

#### 応用ミクロ経済学セミナー

応用ミクロ経済学(産業組織論、労働経済学、公共経済学、開発経済学、環境経済学、行動経済学など)の分野で活躍する国内外の研究者を招き、先端的な研究発表を聞いて議論します。応用ミクロ経済学における学術研究の推進と啓発を目的とします。

#### 史的分析セミナー

経済史・経営史・思想史・学説史など史的分析の分野を対象に、学内外の研究者、院生によるセミナーを開催します。

#### 会計学セミナー

財務会計・管理会計を中心として、内外の研究者を招き最先端の研究報告をしていただくことで、会計学についての最新の研究動向を把握し、研究水準向上をはかることを目的として開催します。

#### アジア経済発展論研究会セミナー

東南アジア研究所、農学研究科と連携して、京大内の各部署の経済発展論・開発経済学・アジア経済系の研究者の交流・共同研究の促進のために、学内外の研究者による研究報告とそれに関するディスカッションを行います。

#### 国際経済学セミナー

国際経済学の研究について、国内外の研究者を招いて最先端の研究報告をしていただき、当該分野の研究動向に関する情報を収集するとともに、研究交流を行い、本学における国際経済学の研究の発展と大学院生や若手研究者らの育成に資することを目的とします。

#### マクロ経済学セミナー

現代のマクロ経済学は研究対象が大幅に広がり、かつ方法論においても急速に進歩しています。このようなマクロ経済学の進歩にキャッチアップし、社会・学界に貢献する研究成果を上げるには、研究者や実務家との交流、意見交換、問題意識の共有が不可欠です。本セミナーでは、学外から研究報告者を招へいし、本研究科の研究成果を高めることを狙いとします。

## 教員の受賞

氏名	受賞年	賞の名称	受賞著作・活動
依田 高典	2019	行動経済学会	"Moral Suasion and Economic Incentives: Field Experimental Evidence from Energy Demand" <i>American Economic Journal</i>
	2022	情報通信学会 論文賞優秀賞	「個人のプライバシー意識等とデジタルサービス利用に関する実証分析」
諸富 徹	2021	第11回不動産協会賞	『資本主義の新しい形』岩波書店
佐々木 啓明	2022	アサヒグループ環境・サステナビリティ研究賞	人口成長と枯渇資源が経済成長に与える影響についての理論分析および実証分析
神事 直人	2019	日本国際経済学会小島清賞研究奨励賞	企業の国際化要因と国際技術スピルオーバーに対する地域貿易協定の効果に関する理論・実証研究
関口 倫紀	2019	Academy of International Business Southeast Asia Regional Conference Best Paper Award (Human Resources and Strategic Management)	"Applying agent-based modeling and simulation to business research: A case of organizational behavior and human resource management studies"
	2020	Palgrave Macmillan-AJBS Best Paper Award	"Corporate philosophy as a linking mechanism: Antecedents and behavioral outcomes of internalization of corporate philosophy at Japanese MNCs in Thailand"
牧野 成史	2019	JIBS Gold Medal	1970年の創刊以来、Journal of International Business Studies (JIBS) 誌において学術面で最も貢献度の高い研究者に贈られる賞
	2020	Best IBR Paper of the Year	Li, M.Y., Makino, S., Jiang, C. 2019. "Does national sentiment affect foreign direct investment, and if so, how? Additional evidence" <i>International Business Review</i> , 28(5)
	2021	IACMR-GSJ Global Strategy Best Paper Award	Wnag, P., Liu, B., Makino, S. 2021. "When experience eclipses dependence: Host country experience, international joint venture dissolution, and the moderating role of host country institutions"
草野 真樹	2020	国際会計研究学会学会賞	「IFRS適用をめぐる実証研究の棚卸しと展望」、『国際会計研究学会年報』2019年度第1・2合併号
安達 貴教	2021	日本応用経済学会・2020年度学会賞	「二面市場・価格差別など産業組織の分野、更に公共経済学等の分野における独自性の高い諸研究 ( <i>European Economic Review</i> , <i>Economica</i> , <i>Journal of Law, Economics, and Organization</i> , <i>Small Business Economics</i> など)」
	2023	日本応用経済学会・2022年度著作賞	著書『データとモデルの実践ミクロ経済学 ジェンダー・プラットフォーム・自民党』（2022年、慶應義塾大学出版会）
竹内 憲司	2020	環境経済・政策学会学術賞	「環境経済学におけるマイクロ実証分析」

# 附属組織

経済学研究科では、研究・教育を促進させるために、様々な活動をサポートし、そのための附属組織を有しています。

## プロジェクトセンター

経済学研究科附属プロジェクトセンターは、(1)現代産業社会活性化のためのプロジェクト型研究を組織し、(2)教育技法・教材の開発、産業社会の分析などを行うことにより、広く経済学・経営学の教育研究の向上に寄与することを目的として、2000年11月に設立されました。

プロジェクトセンターでは、上記(1)の目的を達成するため、「大学院教育研究高度化プロジェクト」を募集し、プロジェクトセンター運営協議会で審査の上、2010年度に5件、2013年度に1件、2014年度に1件のプロジェクトを採択し現在に至っています。また、上記(2)の目的を達成するため、任期付きの若手研究者の積極的登用などを進め、現在8名の専任教員が採用されています。

学外との交流に関しては、各プロジェクトと関連のある研究者をリサーチ・フェローとしてセンターのメンバーに加えるとともに、先端的研究を行っている講師を招へいして各種セミナー等を開催し、プロジェクトの発展と普及につとめています。これらプロジェクトセンターの成果の一部は、経済学研究科の「ディスカッションペーパーシリーズ」として公表されています。

## 東アジア経済研究センター

経済学研究科附属東アジア経済研究センターは2002年に設立され、急成長を遂げる中国及び他の東アジア諸国の経済に関する研究の実施、東アジア地域における研究ネットワークの形成、研究成果の社会への還元、および東アジアで活躍する人材の育成を自的とした活動を行っています。

主な活動内容は以下の通りです。

### 1. 研究会・セミナーの開催

東アジア経済を研究する学内外の研究者や学生同士の学術交流を深めるために、「中国経済研究会」、「アジア経済発展論研究会」などを、毎年それぞれ4～8回程度、開催しています。その他、中国、韓国、台湾、ベトナムなど諸外国の協定校との国際交流活動等を随時開催しています。

### 2. 情報発信

本センターでは、2013年末まで機関紙に当たる「東アジア経済研究」を年1回発行しておりましたが、その後、東アジアセンター・ワーキングペーパーとしてリニューアルし、本センターのHP及び冊子体で公表しています。

### 3. 人材育成

東アジア地域の経済発展、とりわけ持続的な発展を促進するためには、人材育成が必要不可欠です。本センターは、2011年から2012年にかけて、中国の中央と地方政府の若手幹部を対象に「日中共同持続的発展人材育成短期研修プログラム」を実施しました。2017年度以降は、若手研究者支援の一環として、経済学研究科から毎年若干名のジュニアリサーチャーを受け入れています。

### 2023年度に開催された中国経済研究会

- “Renewable Energy or Thermal Efficiency Improvement? Assessing the Carbon Mitigation Effects in China” (楊潔)
- 「歴史的技術変化と大分岐」 (岑智偉)
- 「中国の「国進」と混合所有制改革」 (甲斐成章)
- “The synergy effect of agricultural dual-scale management on farmers' income: evidence from rural China” (尹冠球)
- 「人民公社における労働投入に関する研究」 (羅歆鎮)
- “Political Visits and Firm Value: Evidence from Central Leaders' Local Tours in China” (張紅詠)
- 「中国における電力部門低炭素化への道」 (王嘉陽)
- 「中国経済の中長期展望—それを左右する諸要素を踏まえ—」 (福本智之)



2023年7月12日、北京大学経済学院訪問団ご一行が本研究科を訪問。

## 三井住友銀行金融研究教育センター

2011年に三井住友銀行からのご寄付をもとに、「三井住友銀行金融研究教育センター」が設立されました。

センターには、「データストリーム」(Thomson Reuters社)と呼ばれる金融・経済分析のためのデータベースを配備しています。株価・企業財務データ・債券・金利・オプション・為替・マクロ経済データなどの時系列データを取ることが可能です。その際は、エクセルをインターフェイスとして使うことができますので、簡単にデータをダウンロードすることができます。これらのデータは、大学院生・学部生が、講義の課題に取り組む際、また論文を執筆する際の実証研究には欠かせないものです。講義で得た理論的な知識をもとに、自分でデータを分析することにより、新たな問題意識や研究の着想を得る契機となる可能性もあります。またセンターでは、研究発表やセミナーを開催するための設備もあり、経済学研究科・経済学部における金融研究教育のひとつの拠点となっています。



## 経済学研究科・経済学部図書室

図書室の蔵書のうち学生の学習に必要な図書や新刊雑誌は開架コーナーですぐ手に取ることができます。また、内外に誇るべき多彩なコレクションとして各種の特殊文庫があります。2023年4月に図書室と経済資料センターが統合し、センターで収集された各種統計書、白書や京都を中心とした関西地域の企業・経済団体等の一次資料などを含め、多様な資料を有する図書室となりました。約50席の閲覧席には、日々、勉学に勤しむ学生の姿があります。

一部の貴重書を除く全学の所蔵資料は、KULINE(京都大学蔵書検索)で検索できます。また多数のデータベース、電子ジャーナル、電子ブック等の電子リソースを学内からは学内LAN、学外からは認証システム経由で利用することができます。

《蔵書数》和書:328,573冊 洋書:299,173冊 和雑誌:5,374種類 洋雑誌:3,325種類



# 関連活動

## 京都大学経済学会

京都大学経済学会は、1919(大正8)年の京都大学経済学部創立と同時に創設され、経済学・経営学に関する研究・教育の振興や、京都大学大学院経済学研究科・経済学部の発展に寄与してきました。

1915(大正4)年に創刊され100年以上の歴史を持つ学術誌『経済論叢』を刊行し続け、京都大学における経済学研究の成果を公表してきました。『経済論叢』は2015年に創刊100周年を迎え、記念号として、河上肇博士をはじめとする経済学部に在籍した歴任教員の代表的論文の再録を含む特別号を発刊しました。

経済学分野でアジア最古の欧文学術誌である1926年創刊のThe Kyoto Economic Reviewを2018年に経済学研究科より引き継ぎ、経済学・経営学分野の英文総合誌として国内外に学術成果を発信してきました。

2023年より、『経済論叢』とThe Kyoto Economic Reviewを統合し、同時に完全オンライン化したウェブ上の学術誌『経済論叢』(The Kyoto Economic Review)として生まれ変わりました。

京都大学経済学系に所属する専任教員へ単著出版助成を行い、経済学研究科における研究成果の普及に寄与しています。



# 社会連携

## 産学共同講座

京都大学は、産官学連携を通じて研究成果の還元と社会貢献を積極的に進めることを基本理念の1つとしています。社会と産業界に広く貢献することを目的に、民間企業等と京都大学の双方が共同でプロジェクトの拠点形成することで、イノベーションの創出を図るといった新たな制度が産学共同講座です。

## 産官学連携(受託研究など)

学術研究の成果を社会に還元し、また産官学の連携による創発や革新を実現するために、経済学研究科は、受託研究や各種の共同研究をおこなっています(例: 低炭素型の行動変容を促す情報発信(ナッジ)等による家庭等の自発的対策推進事業(多様な価値観を反映したパーソナル・ナッジの開発と社会実装))。

## 公的部門との連携(政策立案など)

教員は公共的な役割を担って活動しており、国または地方公共団体の行政機関に設置されている審議会等の委員等として、専門的見地から助言・指導などを行っています(内閣官房デジタル市場競争本部事務局、文部科学省高等教育局、公正取引委員会、京都府等の委員)。

## 高等学校との連携

高大連携事業の一貫として、経済学研究科教員による高等学校での出張講義や見学説明会、大学訪問等の受入れを行っています。





# 同窓会

## 相京 重信 同窓会長 ご挨拶



同窓会長の相京です。経済学部同窓会には北海道支部から九州南部支部まで全国に8つの支部があり、約1万1000名の会員を擁しております。活動内容は経済講演会や親睦会が中心で、本部発によるZOOMを活用した全国の会員向けのもの、各支部が所管する地区の会員を対象とした独自の企画で行うものがあります。いずれも「会員相互の親睦と大学との連絡をはかる」という同窓会の趣旨に沿った活動です。私の属する東京支部では経験豊かなOB理事だけでなく30代の若手や女性の理事の方々に企画段階から参加頂き、皆でアイデアを出し合い同窓会活動をより良いものに行うと侃々諤々の議論が行われております。

コロナも一段落を迎え、ようやく各地でリアルな同窓会を開催することができるようになり懇親会も可能になったため、参加者も増加傾向にあります。講師は、京都大学に関係のある教授陣をはじめ、現在各方面で活躍されている京都大学出身の方々をお願いしております。参加者の多くは年配者ではありますが若手の方々の参加も増えてきております。卒業後間もない若手やベンチャー企業を立ち上げようとしている若手も参加してくれており、講演終了後に開催される懇親会で経験豊かなOBや教授陣と直かに会話し知己を得ております。こうした活動を通じ、皆様方の活動範囲や人脈を広げる一助になることができれば同窓会として幸いです。今後とも皆様にとって参加しやすく、また意義のある同窓会活動を行う事を目指してまいりますのでよろしくお願いいたします。

## 活動内容

毎年、総会を開催し、同窓会報を発行しています。同窓会報には、総会を始めとする様々な行事のご案内やご報告、支部の活動、大学・経済学部の様子、退任教員・新任教員の紹介、卒業生の近況などをお知らせしています。日本各地に8支部を設け、地域ごとに総会や懇親会等が行われています。学部の現教員も同窓会の活動に、積極的に関わっています。



## 卒業生主催イベント

卒業生の皆様が開催されるクラス会・ゼミ会なども盛んに行われています。とくに「卒業50周年記念同窓会」は卒業50年を節目とし、京大百周年時計台記念館において盛大に行われています。

## 在学生交流イベント

学部生の皆さんにも、在学中から先輩や教員との交流を深める機会を増やすため、2009年より「同窓会学生特別会員」を入学時に募集しています。会員になっていただくと、毎年大好評の「在学生イベント」に無料で参加できるほか、色々な特典を受けられます。



在学生イベント



このように同窓会は、学部卒業生、大学院修生、在学生、名誉教授等の旧教員、学部現教員を中心に組織されており、世代を超えて交流が図られています。



## 教員紹介

①専門分野 ②専門分野の面白さについて



## 若井 克俊 教授

Wakai, Katsutoshi

- ①ミクロ経済学、意思決定論
- ②個人の意思決定方法を理論的に研究しています。導出したモデルを用いて経済問題を分析することで新たな視点を提供できます。



## 岩島 史 講師

Iwashima, Fumi

- ①ジェンダー史、農業経済学、食と農の社会学
- ②農業、地域社会、女性、家事労働のように「経済」からは見落とされがちかつ不可欠な領域に焦点をあてることで、研究や社会の前提を批判的に問い直すことができます。



## スティーブン アイピンス 准教授

Ivings, Steven

- ①社会経済史
- ②グローバル経済がいかに形成されたのか、どんなインパクトを与えられたのかを研究しています。



## 岩瀬 祐介 講師

Iwase, Yusuke

- ①マーケットデザイン・メカニズムデザイン
- ②「適材適所」な資源配分を達成する社会制度を、数学・アルゴリズムを用いて構築します。工学的・実践的な側面を有する分野です。



## 秋田 祐哉 教授

Akita, Yuya

- ①知能情報学、データサイエンス
- ②事象の複雑な要因を解き明かし、人間のように判断する仕組みを実現するところにデータサイエンスや人工知能の楽しさがあります。



## 江上 雅彦 教授

Egami, Masahiko

- ①ファイナンス工学、動学的最適化
- ②さまざまな工夫(数学、統計学、数値計算)を活かして確率の世界での価格付けと最適化を研究します。



## 安達 貴教 教授

Adachi, Takanori

- ①産業組織論、競争政策論、応用ミクロ経済学、実証ミクロ経済学
- ②不完全競争という視点を通して、労働市場や金融市場も念頭に置きながら、現代経済の諸問題を考えていくことに関心を持っています。



## 岡 敏弘 教授

Oka, Toshihiro

- ①厚生経済学、環境経済学、古典派価値論
- ②環境経済学の面白さは、異分野を自由に渡り歩いて、どの経済学を使うかを選ぶことにあり、そのために諸学派を知ることにある。



## 天野 良明 准教授

Amano, Yoshiaki

- ①財務会計、企業分析、合併・買収(M&A)
- ②企業の成績表である財務諸表を作成するルールが変わることで、企業の行動がどのように変わるのかに関心があります。



## 數村 友也 講師

Kazumura, Tomoya

- ①メカニズムデザイン、ミクロ経済学
- ②メカニズムデザインでは、市場がうまく機能しない状況において、望ましい結果を達成する制度の解明をおこなっています。



## 砂川 伸幸 教授

Isagawa, Nobuyuki

- ①コーポレートファイナンス、ESG経営
- ②ESG要素と財務指標を統合的かつ論理的に組み合わせ、企業価値や事業価値の評価額を算出することが面白いです。



## 北田 雅 講師

Kitada, Miyabi

- ①臨床心理学、医療経済学、高等教育学
- ②臨床心理学は人間の可視化できない部分が捉えられ、深みがあります。醍醐味は統計的分析を通じて、新たな知見が得られる点です。



## 依田 高典 教授

Ida, Takanori

- ①応用経済学
- ②人間の経済心理の限定合理性に着目する「行動経済学」を専門としています。実際の生活の中で仮説検証を行う「フィールド実験」、経済学と機械学習の融合研究にも励んでいます。



## 草野 真樹 教授

Kusano, Masaki

- ①財務会計、国際会計
- ②会計基準の変更が会計情報の作成者および利用者、そして監査人に及ぼす経済的影響に関心を持って、研究を進めています。



## 岩崎 康平 准教授

Kohei Iwasaki

- ①マクロ経済学、金融
- ②資産が、人々の期待によって、その本質的な価値を超える価格で取引される現象を探索することができます。



## 黒澤 隆文 教授

Kurosawa, Takafumi

- ①経済史・産業史・経営史、経済政策史
- ②法則性に関心を限定せず、経済的・社会的事象の構造・特質・変化や、それらがなぜそこに実在するのか、その意味を読み解きます。



### ケヴァヘイッシュウィリ ルースダン 講師

Rusudan, Kevkhisvili

- ①ファイナンス工学
- ②確率過程の理論研究とその成果のファイナンス問題への応用を通して、不確実性に満ちた現実世界と理論を結ぶ学際的分野。



### 神事 直人 教授

Jinji, Naoto

- ①国際経済学
- ②日本や世界におけるグローバルな経済活動の様々な課題に対して、理論的・実証的な研究によって答えを見つけしていきます。



### 高野 久紀 准教授

Kono, Hisaki

- ①開発経済学
- ②途上国の貧困問題や経済発展を扱う開発経済学を研究しています。経済理論とデータ分析から途上国の様々な問題に関する分析と政策提言を行います。



### 鈴木 寛之 講師

Suzuki, Hiroyuki

- ①管理会計、原価計算、環境管理会計
- ②管理会計は実学としての側面を持ち、実践方法に多様性があり、また組織運営のみならず日常生活を送る上でも有用です。



### 小林 舞 特定助教

Kobayashi, Mai

- ①農村社会学、環境社会学
- ②農村社会が誰により、どのように変化してきたか、変化しうるかを研究し、それが私たちの日々の生活にどのような影響を及ぼし得るかに関心があります。



### 関口 倫紀 教授

Sekiguchi, Tomoki

- ①人的資源管理論・組織行動論
- ②働く人々の心理や行動について深く理解し、それを組織運営、人事管理、キャリアデザインなどの実践に役立てることが出来ます。



### 坂出 健 教授

Sakade, Takeshi

- ①経済安全保障
- ②経済安全保障論は、経済の側面から、また社会心理の側面から国際安全保障を考える視点です。



### 竹内 憲司 教授

Takeuchi, Kenji

- ①環境経済学
- ②環境経済学は、学際的な性格を強く持っています。分野にとらわれない自由な発想を大切にしたい方のチャレンジをお待ちしています。



### 佐々木 啓明 教授

Sasaki, Hiroaki

- ①経済理論、経済動学、経済成長論
- ②経済成長論を学ぶことにより、一国の経済成長率がどのように決定され、各国の経済成長率はなぜ異なるのかを知ることができます。



### 竹澤 祐丈 准教授

Takezawa, Hiroyuki

- ①社会思想史
- ②私たちの社会の枠組みや常識はどのように形成されてきたのか。目に見えるものを、その背後の価値観や考えからスリリングに分析。



### 澤邊 紀生 教授

Sawabe, Norio

- ①会計学、管理会計、マネジメントコントロール
- ②会計という企業などの組織活動を認識し表現する仕組みを研究することで、会計によって組織や社会がどのように変わっていくのか理解を深めることができます。



### 田所 篤 講師

Tadokoro, Atsushi

- ①企業の異質性を伴う貿易政策の理論分析
- ②企業間で生産性が異なることを想定した枠組みで貿易政策の効果进行分析することにより、貿易政策の新しい政策的含意を得られる点。



### 島本 哲朗 教授

Shimamoto, Tetsuro

- ①金融論
- ②現実経済の仕組みやお金の流れがよく理解できます。



### 田中 彰 教授

Tanaka, Akira

- ①経営史、産業論
- ②優れた産業論の成果は、それ自体が最高の読み物であると同時に、ストーリーを通して現象の背後に貫く論理を教えてください。



### 白井 亨 助教

Shirai, Toru

- ①図書館情報学、学術情報利用
- ②経済学や経営学における多様な学術情報の特性とそのアクセス方法などについて、図書館情報学の視点から考えています。



### エミリー チュン 特定講師

Chung, Emily

- ①マーケティング、消費者とブランドの関係、消費文化論
- ②同じ物を買ってもトレジャーだと感じる人がいる一方、何の魅力も感じない人がいるのはなぜでしょう？消費者の選択の背後にある心理や周囲に及ぼす社会的影響を探る事に大変興味があり、研究をしています。



## 教員紹介

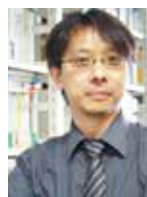
①専門分野 ②専門分野の面白さについて



## アスリ チョルパン 教授

Colpan, Asli M.

- ①企業戦略、国際経営、企業統治、経営史
- ②主に非関連多角化しているコングロマリット、ビジネスグループのような企業の戦略やガバナンスについて研究をしています。



## 久野 秀二 教授

Hisano, Shuji

- ①農業・食料の政治経済学／社会学
- ②生命と生活に関わる食と農は現代社会の矛盾を映す鏡です。規範性と批判性に根ざした食農ガバナンス研究が求められます。



## 中林 純 教授

Nakabayashi, Jun

- ①産業組織論
- ②調達について理論・実証研究をしています。調達とは、他人(ヒト)のカネで他人(ヒト)のモノを買うことです。無駄遣いが減って不正や談合の温床とならないような制度設計などについて考えています。



## 牧野 成史 教授

Makino, Shige

- ①経営戦略、国際経営、組織理論
- ②複雑でダイナミックな経営環境を乗り切るための意思決定、経営戦略、組織設計の醍醐味を学べるところ。



## 西山 慎一 教授

Nishiyama, Shinichi

- ①マクロ経済学、財政政策、社会保障制度
- ②税や社会保障といった政策・制度が経済成長や所得・資産格差に及ぼす影響を、動学的なマクロ経済理論を通して探究しています。



## 松井 啓之 教授

Matsui, Hiroyuki

- ①計画理論(Planning Theory)
- ②「計画」は実践を伴って意味を持ちます。計画理論は、未来を創造するために必要な「計画」という行為とプロセスに共通するメタ理論です。



## 根井 雅弘 教授

Nei, Masahiro

- ①現代経済思想史
- ②マーシャル、ケインズ、シュンペーターなどの古典的名著をひもとき、現代の経済問題を考察するヒントを探ることにある。



## 諸富 徹 教授

Morotomi, Toru

- ①財政学、環境経済学
- ②財政も環境も、経済成長と環境保全、経済成長と所得再分配のトレードオフの中で、持続可能性をどう実現するかが鍵になります。



## 長谷川 誠 准教授

Hasegawa, Makoto

- ①公共経済学
- ②税制など、様々な政策や制度の効果を経済学の理論を用いて考察したり、データを用いて定量的に検証したりすることです。



## 門傳 藍香 講師

Monden, Aika

- ①マーケティング
- ②企業が価値を創造し、その可能性を最大限に発揮するためのマーケティング戦略は、実学的で生きた学問であるという魅力があります。



## 羽田 祥子 特定助教

Hata, Sachiko

- ①アントレプレナーシップ、組織論
- ②大企業と「うまく」関わるオープンイノベーションの工夫などスタートアップの企業間関係には起業家の知恵が駆使されています。



## 安井 大真 教授

Yasui, Daishin

- ①マクロ経済学、人口経済学、労働経済学
- ②マクロ経済学では、時間を越えた複数の市場および経済主体の相互作用を考え、ときに意外な発見があります。



## 羽村 靖之 講師

Hamura, Yasuyuki

- ①数理統計学
- ②データから情報を引き出す際に、通常的手法よりも良いものを構成できる場合があり、面白いと思います。



## 柳 貴英 准教授

Yanagi, Takahide

- ①計量経済学
- ②「いつ、どのようにして、興味のあることをデータから調べられるか?」の考え方に特有の面白さがあります。



### 矢野 剛 教授

Yano, Go

- ①途上国・移行国経済論
- ②経済発展のプロセスとメカニズムを、そもそも市場が発生し機能するとはどういうことかという本質中の本質から考察する点です。



### 劉 徳強 教授

Liu, Deqiang

- ①経済発展論、中国経済論
- ②ダイナミックに変化する中国経済の実態を把握するとともに、経済発展と政治体制との関係を探求する。



### 山内 裕 教授

Yamauchi, Yutaka

- ①組織論、サービス、デザイン
- ②歴史を画すようなイノベーションを起こすために、社会の変化を読み取り、新しい時代を表現するアプローチを追求しています。



### 芦 宛雪 特定助教

Ro, Ensetsu

- ①アジア経済論
- ②多角的な視点から現地社会を総合的に理解した上、アジア諸国の経済発展問題を考察することです。



### 山田 憲 教授

Yamada, Ken

- ①労働経済学、家族の経済学
- ②日々の生活に関わる比較的身近な問題を研究の題材にしてその中にある普遍的な法則をデータから解き明かします。



### 若林 直樹 教授

Wakabayashi, Naoki

- ①マクロ組織論、ネットワーク組織論、組織社会学
- ②マクロ組織論は、企業グループや企業間提携などの企業同士の協働のメカニズムについて経営学的、社会学的な観点から研究します。



### 山田 仁一郎 教授

Yamada, Jin-ichiro

- ①経営学、アントレプレナーシップ、経営戦略論、組織論
- ②市場や社会の常識が瞬間に移ろう中で、企業家や経営者、組織の問題から世界を読み解くことは、とても見晴らしが良いのです。



### 渡邊 純子 教授

Watanabe, Junko

- ①日本経済史・経営史
- ②歴史は人間や社会の本質をとらえるための材料を提供してくれます。複雑な事象の相互関係や因果関係を読み解く作業も面白いです。



### 遊喜 一洋 教授

Yuki, Kazuhiro

- ①マクロ経済学、経済発展論、労働経済学
- ②主に途上国の経済発展問題についてマクロ経済的な分析を行っています。政治学など経済学以外の知見も活用して研究しています。



### 楊 燕莉 特定講師

Yong, Yennie

- ①経営史、経済史、産業史
- ②新興国においては、植民地やポストコロナ時代、産業や企業の基盤がどのように形成されたかを研究しています。



### 李 晨 特定講師

Li, Chen

- ①ミクロ経済理論、意思決定論
- ②不確実性下の意思決定に関する理論研究を行っています。個人の意思決定から集団意思決定まで、様々な問題への理解を深めることができます。



# Dataで見る経済学研究科・経済学部

## 基本情報

	経済学部	大学院経済学研究科	
		修士	博士
設立	1919年(大正8年)5月	1953年(昭和28年)4月	
入学定員数	240名	70名	25名
卒業/修了所要単位数	140	30	—
学位授与数累計	24,449	2,053	1,144
所在地	京都大学吉田キャンパス		

(2021年度)

## 教員数

(2023.4現在、併任含む)

区分	人数
教授	30
准教授	9
講師	13
助教	6
合計	58

## 在籍学生数

(年度)	2019	2020	2021	2022	2023
経済学部	1,125	1,096	1,090	1,097	1,083
大学院経済学研究科	229	232	233	286	277
合計	1,354	1,328	1,323	1,383	1,360

## 学位授与状況

(年度)	2019	2020	2021	2022	2023
学士	273	250	255	253	249
修士	47	68	58	64	62
博士	21	29	16	14	22

## 競争的外部資金受入状況 (2022年度) (千円)

科学研究費補助金	81,250
寄附金	47,450
受託研究	58,936
受託事業	724
民間との共同研究	45,678
機関経理補助金	19,491
合計	253,529

## 科学研究費補助金採択件数 (2022年度) (人)

基盤研究(A)	2
基盤研究(B)	6
基盤研究(C)	9
挑戦的萌芽研究	2
若手研究	12
研究活動スタート支援	1
合計	32

## 学部卒業者の進路状況

(年度)	2018	2019	2020	2021	2022
建設業	0	4	1	2	0
製造業	28	28	25	28	13
電気・ガス	6	9	5	2	10
情報通信業	23	40	28	22	25
運輸・郵便業	7	10	3	6	2
卸売・小売業	17	19	19	12	26
金融・保険業	59	52	42	57	54
不動産業	11	4	8	8	0
学術研究・専門技術	45	49	47	46	27
飲食・宿泊業	1	0	2	1	0
教育・学習支援	4	3	4	5	0
公務員	6	6	8	12	11
サービス業その他	7	11	8	12	33
進学( )内は経済学研究科	23(9)	25(10)	24(13)	24(20)	23(15)
上記以外	16	13	26	18	29
合計	253	273	250	255	253

## 修士課程修了者の進路状況

(年度)	2018	2019	2020	2021	2022
博士後期課程進学 (他研究科・他大学含む)	17	15	14	13	10
官公庁	0	1	1	0	1
企業	24	23	38	30	22
その他(不明・未回答等含む)	6	8	15	17	16
合計	47	47	68	60	49

## 博士後期課程修了者の進路状況

(年度)	2018	2019	2020	2021	2022
大学及び研究機関	10	6	12	2	4
官公庁	1	1	1	0	0
企業	5	5	0	1	0
その他(不明・未回答等含む)	8	6	13	6	4
合計	24	18	26	9	8

# Academic Calendar 2024

●学部・大学院共通 ●学部関係 ●大学院関係(東アジアコース\*: 東アジア持続的経済発展研究コース)

4

- 前期開始(4/1)
- 入学式(4/5)
- 入学ガイダンス
- 前期授業(4/8~7/22)
- 前期科目履修登録
- 博士後期課程研究計画書提出



10

- 後期開始(10/1)
- 後期授業(10/1~1/24)
- 後期科目履修登録
- 入学式(東アジアコース\*)(10/1)
- 博士研究計画書提出(東アジアコース\*)



5



11

- 11月祭
- 学部特色入試



6

- 創立記念日(6/18)



12

- 冬季休業(12/30~1/3)



7

- 前期試験期間(7/23~7/29)
- 修士論文提出(東アジアコース\*)
- 博士研究成果報告書提出(東アジアコース\*)



1

- 大学共通テスト(1/18・1/19)
- 後期試験期間(1/27~1/31)
- 修士論文提出
- 博士研究成果報告書提出
- 博士後期課程編入学選抜試験
- 博士後期課程編入学社会人特別選抜



8

- 夏季休業(8/6~9/30)



2

- 学部入学者選抜試験(2/25・26)
- 外国学校出身者特別選抜



9

- 前期終了(9/30)
- 修士課程入学者選抜試験
- 大学院学位授与式(東アジアコース\*)(9/24)



3

- 後期終了(3/31)
- 卒業式(3/25)
- 大学院学位授与式(3/24)





京都大学

京都大学  
大学院経済学研究科・経済学部

〒606-8501 京都市左京区吉田本町  
TEL.075-753-3400 FAX.075-753-3492

URL [www.econ.kyoto-u.ac.jp](http://www.econ.kyoto-u.ac.jp)

